

令和7年度 いわき市立小川小学校 学校経営・運営ビジョン

子ども・保護者・地域の実態

- 全体的に明るく素直な子どもたちである。学習にまじめに取り組み頑張る姿が見られる。
- 「「自己肯定感、自己効力感」「時と場に応じた言葉遣いやあいさつ」「読書活動への取り組み」等の点において課題が見られる。
- 保護者や地域の方々が積極的に学校行事、環境整備等に関わるなど協力的である。
- 小川小学校出身の保護者も多く、学校に誇りと愛着を持っている。
- 学校教育に対する関心が高く、学校への信頼と期待も大きい。
- 地区内では以前よりの住居地区と新興住宅地区があり、相双地区等他地区からの転入も見られる。今後は児童数の減少が予想される。

めざす学校・教師像

- 「小川小の子ども」としての自信と誇りを持てる学校にする。
 - ・ 小川小学校としてのより良い「校風」をつくり、「小川小の子ども」だから頑張るという気概をもてる児童を育成する。
- 変化に柔軟である教師
 - ・ 社会の変化に対応し、常によりよくするために行動する。
- 協働的に取り組む教師
 - ・ 自ら考え、同僚生を発揮し、教師相互が共に協力し取り組む。
- 成果と課題を共有する教師
 - ・ 課題を明確にし、具体策を考え実践する。
 - ・ 共通理解を徹底し、同一歩調で取り組む。
 - ・ 切磋琢磨できる集団、高め合う集団となる。

【教育目標】

豊かな感性、たくましさ、正しく判断する力を持ち、進んで実践する児童の育成
おもいを伝え合う子ども（知）
がんばりを認め合う子ども（徳）
わたしから身体をきたえる子ども（体）

【心の教育】

○ 互いにそのよさを認め、励まし合って生活できる

- ・ 相手に温かい心で接する。
- ・ 互いに理解し、尊重する。
- ・ 思いやりの心を称賛し合う。
- ・ 思いの伝わる挨拶や言葉遣いをする。

【達成目標】

- ☐ 自ら進んで挨拶が進んでできる。
- ☐ 友だちと関わり、思いやることができる。
- ☐ 集団生活の中で、互いに認め合うことができる。
- ☐ 「あいさつがきちんとできる」のAB評価93%以上
- ☐ 「思いやりがある」のAB評価86%以上

《重点実践事項》

- 全校体制であいさつ活動を推進
 - ・ 場に応じた声の大きさでの返事、あいさつ
 - ・ あいさつ運動の推進 「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子
- 互いの良さを認識させ、認め合える学校・学級づくりの推進
 - ・ 学校全体での「花さき山」の推進
 - ・ ソーシャルスキルトレーニングの有効活用
 - ・ Q-Uテスト、I-SUS等を活用した児童理解
- 少人数を生かした活動の充実
 - ・ 縦割り班での体験活動の充実
- 道徳科の充実を努める。
 - ・ 道徳性育成のための考える道徳の推進（教師のコーディネート）の推進
 - ・ 家庭、地域、関係機関等との連携推進
- GIGA スクール構想に対応した情報モラル教育の充実

【学力向上】

○ 友だちの意見を聞き、自分の考えをよりよく表現できる

- ・ 基礎・基本が身に付き、課題に粘り強く取り組む。
- ・ 多様な考え・意見を持ち、自分の考えを分かりやすく伝える。
- ・ 対話を通して考えや意見を練り合い、よりよく高め合う。
- ・ 学習を振り返り、次の学習に生かす。

【達成目標】

- ☐ 学習の仕方が分かり、基礎的・基本的な学習内容を理解している。
- ☐ 学習の中で多面的に考え、自分の意見と友だちの意見を関連づけて考えることができる。（教師のコーディネート）の推進
- ☐ 「学習内容を理解している」のAB評価90%以上
- ☐ 「自分の考えを表現している」のAB評価73%以上

《重点実践事項》

- わかる授業の実践
 - ・ 基礎基本の確実な定着
 - ・ 授業の始めと終わりの振り返りの時間の確保
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化
 - ・ 自分から課題を持たせる工夫
 - ・ 思考力・判断力・表現力の育成のためのペア・グループ学習の充実
 - ・ 個の理解度に応じた指導（GIGA 端末の効果的な活用）
 - ・ 共有と吟味を意識した授業改善（GIGA 端末の効果的な活用）
 - ・ 教師のコーディネート力の強化
- 家庭学習の習慣化、自己マネジメント力の育成
 - ・ 家庭学習カード等の活用
 - ・ 図書室、移動図書館等の積極的な活用と読書の習慣化
- 幼保・小・中の連携推進
 - ・ 相互の情報交換を行い、実態の把握と共有を行う。

【体力・健康】

○ 自分の心と体の健康を考え、進んで活動できる

- ・ 体を客観的に理解する。（新体力テスト、健康診断等）
- ・ 心と体の健康の大切さが分かり、健康的な生活を実践する。
- ・ 自ら進んで体を鍛える。
- ・ 身の回りの危険を認識し、それを回避する。

【達成目標】

- ☐ 早寝・早起き・決まった時間に栄養を考えた食事を摂るなど規則正しい生活を送ることができる
- ☐ 自分の安全・健康状況について理解し、自分から進んで健康・安全な生活を送ることができる。
- ☐ 「早寝・早起きをしている」のAB評価75%以上
- ☐ 「体力がついている」のAB評価85%

《重点実践事項》

- 「早寝・早起き・朝ご飯」など基本的生活習慣の確立
- 健康・食育教育の充実
 - ・ 清潔習慣の定着（手洗いの励行、ハチ・ティッシュの持参等）
 - ・ 児童の身体の実態把握と分析
- 体力及び運動技能の向上
 - ・ 体力づくりの実施 専門家を活用した水泳、体操の授業の実施
 - ・ 筋力、筋持久力を高める運動の推進 運動会、持久走記録会への意識づけ
 - ・ 運動身体づくりプログラムの計画的な実践
- 身の回りの危険を認識し回避する態度の育成と事故防止
 - ・ 校庭の安全な利用
 - ・ 学校内外の危険箇所についての理解
 - ・ 登校班を中心とした安全な登下校

家庭・保護者の教育力UP

- PTA活動の積極的な活動を奨励します。
- 学校行事に積極的に参加できるよう、運営等を工夫します。
- 「家庭学習」「メディアコントロール」「共食（家族と一緒に食事をする）」等を含む『ふれあいチャレンジ』の推進により、家庭の教育力の向上を促します。

地域の教育力UP

- 地域人材の活用を効果的に進め、学社連携・融合に努めます。
 - ・ 授業での外部講師・読書ボランティアの活用
 - ・ 地域関係団体の学校教育活動への参加
- 地域ぐるみの安全指導支援に努めます。
- 学校評議員会の意見を学校経営に生かします。